

けんぱくものしりシート

じょうもん じだい みみ かざ

縄文時代の耳飾り



これは何だろ
う？ 土器か
な、土偶かな。



ケンくん

もよう
模様がつい
ているね。



ハクちゃん



かるまいまおひなたにいせきしつど
軽米町大日向II遺跡出土



かいせついん
解説員

これは、縄文時代の人
たちが身につけていた耳飾りよ。
ピアスのように、耳に穴をあ
けて、その穴に縁の部分をは
めるようにしてつけるの。

どうしてこ
れが耳飾り
だってわか
るの？



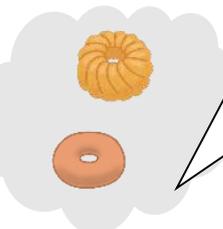
よく似たものが、縄文時代の人
の骨の、耳のところで
見つかっているの。それに、当
時の土偶や仮面にも、耳
飾りをしているらしいものが
たくさんあるのよ。

おんな
女の人がお
しゃれのため
に身につけて
いたの？



男性の骨の近くからも見
つかっているのよ。
年齢や身分、部族を示すため
や、まじないとして身につ
けた、など、色々な意味合
いがあつたのではないかと考
えられているわ。

縄文時代の耳
飾りは、みんな
こんなふう
に丸い形をして
いるの？



大きさや形やもようなど、色
々なものがあるの。
近い地域で似たものが見られ
ることから、結婚のときなど
に身につけて移り住むことで、
耳飾りや土器などの文様が伝
わっていったという説もある
の。

時代の流れに沿っていくつか
紹介するわね。

けつじょうみみかざり 玦状耳飾

縄文時代早期の終わりに現れ、前期(約7,000～5,500年前)に流行しました。古代中国のアクセサリー「玦」に形が似ているためこの名前がつけました。切れ目の部分から耳たぶの穴に通してつけます。主に石でつくられ、加工がしやすい滑石や蛇紋岩などが使われました。土や骨で作られたものもあります。

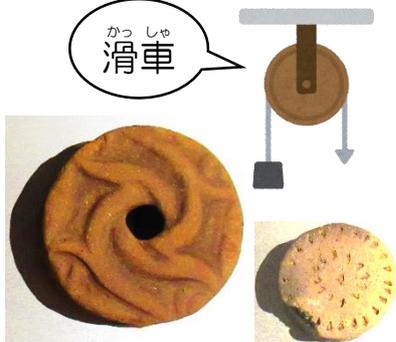


せんじょうみみかざり 栓状耳飾

縁の部分を目の穴にはめてつけるものです。中期(約5,500～4,500年前)に中央部がくびれた鼓のような形をしたもの(耳栓)が登場し、赤く色を塗ったり、側面に点や渦巻文などの文様を施したりしたものが作られました。



かっしゃ 滑車



後期後半から晩期(約3,500～2,800年前)になると、関東・中部地方で滑車のような形をしたもの(滑車形耳飾)が爆発的に流行し、やがてさらに大型で手の込んだ文様(透かし彫り文、三叉文など)が施されたものへと発展していきましたが、晩期の終わりころ(約2,800年前)には、ほぼ消え去りました。

どんな人が、どんなことを思いながら身につけていたのかな。



縄文時代の人に直接きくことはできないけれど、当時の資料を通じて想像してみましょうね。

参考 『縄文時代の考古学10 人と社会—人骨情報と社会組織—』株式会社同成社 2008年/『耳飾り—縄文と世界のアクセサリー展 図録』御所野縄文博物館 2005年 他

らいげつ (がつ) の
けんぱくものしりシートは
れきし
歴史—20だよ！
おたのしみに！



モッチャン



岩手県立博物館

〒020-0102 岩手県盛岡市上田字松屋敷34
Tel. 019-661-2831 Fax. 019-665-1214
<http://www2.pref.iwate.jp/~hp0910/>

※「けんぱくものしりシート」の内容は発行当時のものです。最新情報ではございませんので、あらかじめご了承ください。
※「けんぱくものしりシート」は解説員が執筆しております。